

中野 陽典君 追悼のことば

都 福仁

中野陽典君が2022年9月17日に亡くなられ無念の思いで一杯です。

想えば三国ヶ丘高校2年3年と同じクラスでした。中野君の大美野にあったお宅によく遊びに行きました。中野君だけでなくお婆さん、お母さんもニコニコして話に加わりました。お婆さんは行くとお茶を点ててくれ、自由な格好で飲んで良いよと言ってくれました。

中野君は一浪しましたがよく勉強し、これで落ちたらどうしようもないと言っていました。言葉通り阪大を一番の成績で合格しました（当時は大学に聞きに行けば点数は教えてくれていました）。

当然、大学では助手になり、若くしてハーバード大学に留学し将来を嘱望された素晴らしい医者でした。人格的にも素晴らしくこんな医者にかかって間違っても文句は言えないなと思える医者でした。ただ、奥さんのお産の時、生まれそうになって、慌てて医学書を読んでいると、お婆さんが笑っていたのが最近の様に思い出されます。

阪大の微生物研究所の講師時代に教授が退官され癌研究の専門病院の院長に、中野君が副院長として多くの手術チームを率いて大学を退官しました。中野君は阪大が基礎研究を中野君の病院が医療で共同して癌研究を推進すると張り切っていました。飲み友達が集まってお祝いの会をしたのが夢のようです。残念なのは暫くして病院の出資者の不始末で潰れ、中野君は手術チームの人達の再就職に追われ疲労から喘息になり羽曳野の病院に長く入院することになりました。

当時、私は北大理学部物理学科の助手をしており途中の詳しいことは知りませんでした。次によく会うようになったのは私が阪大理学部に移動し、長堀病院の院長をしていた中野君にお世話になるようになってからです。私が困った時など来てくれと頼むと箕面の自宅から直ぐに会いに来てくれ何時間も話を聞いてくれました。彼は無口ですが、静かに私を支えてくれていました。

話は戻りますが学生時代、杉野鉄三、小川誠二郎、中野陽典、私等で誰かの家で飲んで議論に花を咲かせました。議論は熱を帯び長くなるのですが、最後に中野君がポツリと一言結論を言って終わりになります。小川君と次は中野君のようにしようと何時も反省するのですが、次も相変わらずの成り行きになったものです。

私達が退職して以降は小川誠二郎さんが始めた「金剛俳句会」の後を継いでくれました。俳句は好きだったようで、土生さんが始められた俳句会「扉」にも参加していました。死の直前まで俳句を考えていたのではないかと想います。

岩壺克哉さんが呼びかけた山歩きも最後の方からゆっくりと歩いていました。中野君は良いことも悪いことも自分のことはあまり口に出しません。何事も静かに喜び、静かに耐え、信頼される強い人でした。阪大を退職していなければと残念です。

謹んでご冥福をお祈り致します。



熊野みたとき泣玉ひけり 芭蕉

岩壺克哉さんの呼びかけで海南市の熊野古道藤白坂付近をハイキングした時芭蕉翁の碑を見つけ撮った写真(2013年)